

総合計画策定市民会議提言書

平成 25 年 9 月

総合計画策定市民会議

はじめに

市民会議は、平成 26 年度からの新しい東御市総合計画の策定にあたり、広く市民の参画を得て、東御市がめざしていく理想の市などについて議論し、市長へ提言を行うため設置され、本年 4 月 8 日からスタートしていますが、決して順風満帆に進んできたものではございませんでした。

全体会議 2 回、分野別の専門委員会は 6 つの委員会で延べ 31 回に及ぶ会議を重ねて参りましたが、当初は会議の方向性が定まらず、何度も意見の「衝突」や「すれ違い」、また「沈黙」が続く場面もございました。

これらを軌道修正するために、当初予定していなかった部会長会議を 3 回開催し、皆で会議の進め方、提言のあり方について検討する話し合いを持ち、各専門委員会の進め方について共有を図ってきたことは、本日この日を迎えるための大切なプロセスであったように感じているところであります。

私たち市民にとって、何のタタキ台も無い、ゼロ・ベースから創り上げる会議形態は、あまり経験したことの無いものでありました。また行政にあっても、こうした会議手法は初めての試みではなかったのではないかと感じています。

会議のあり方が全て望ましいものであったとは言い難い面もありますが、市民と行政が共に委員として同じテーブルに付き、一緒になって知恵を出し合い、意見をぶつけ合って、これからの将来に向けたまちづくりの方向性を練り上げていく作業は、大変意義深いものであったように思います。

このような会議をきっかけに、市民と行政が互いに理解し合い、一緒に歩みを進めようとする、それこそが「協働」というものではなかったかと考えるものです。

この提言書の提出は到達点ではございません。策定段階から市民参画を図り、総合計画に市民意見を反映していくという市民会議設置の主旨から考えますと、むしろこれは出発点であろうと考えています。今後、行政では来年度 4 月に向かって総合計画策定作業の山場を迎えられるのではないかと思います。これらを進められていく中で、この提言がどのように受け止められ、どのように活かされるのか、そして何より、出来上がった総合計画がちゃんと計画どおり進んでいくのか、私たち市民も、今後関心をもってその動向を見守っていく責任があると感じています。

提言の一つ一つは、その実現の可能性を予算面や人的資源などの面からも検討させていただきましたので、決してご無理な意見をまとめたものではございませんが、すぐにでも取り組むことができるものもあれば、時間をかけ、検討を重ねなければ手がつけれないこと、また部局またがり調整を要するものなど、様々にございます。

今後、総合計画の審議会でも慎重なご議論がなされるものと思いますが、この度の提言書は「明日の東御市」への思いを強く持った 75 名の提言であることをお汲み取りいただきまして、共に東御市の発展をかなえる第 2 次総合計画が完成することを、心よりご祈念申し上げます。

末筆ながら、この度、「市民会議」という場を設けてくださった市長に感謝を申し上げ、提言の総括とさせていただきます。

平成 25 年 9 月 26 日

総合計画策定市民会議 会長 中根 信行